

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
こども学概論	2単位	レポート・科目試験
<b>授業の到達目標及びテーマ</b>		
<p>人はみな「こども」として生きる時期を経て、大人になり、また新たな世代の「こども」と共に生きていきます。では、そんな私たちにとって身近な存在である「こども」を説明するには、どのような視点がふさわしいでしょうか。この授業は「こども」をより多面的にとらえることによって、「こども」に対する理解を深めることを目標とします。様々な時代・社会・文化における「こども」のあり方や「こども」のとらえられ方に注目し、養育者や保育者のあり方についても考察を加えます。</p>		
<b>《到達目標》</b>		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「こども」について生物的・心理的・社会的な視点から考察し、その特性や本質を論じることができる。</li> <li>2. 「こども」観の歴史の変遷を社会や文化のあり方との関連から理解し、説明することができる。</li> <li>3. 現代社会における「こども」を巡る様々な問題に気づき、自らの見解を述べることができる。</li> </ol>		
<b>授業の概要</b>		
<p>こども学は、近年注目を浴びながら発展する学問です。これまで、医学・心理学・教育学・社会学・文化人類学など様々な学問領域において、「こども」を対象とする研究がそれぞれ進められてきました。しかし、本来「こども」はひとりの人間としてひとつの時代を生きる存在ですから、総体として理解される必要があります。そこでこの授業では、こども学の成り立ちを知り、諸々の学問領域に由来する「こども」に関する知見を統合することによって、「こども」の実像により近づくことを目指します。</p>		
<b>授業計画 テキストによる通信授業</b>		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. こども学とは何か？</li> <li>2. こどもとは誰か？こども観の歴史の変遷</li> <li>3. 法律とこどもの権利</li> <li>4. こどもの発達・成長</li> <li>5. こどもの内なる世界、見る・感じる</li> <li>6. こどもの障がい・病理</li> <li>7. 家族のあり方の多様化とこども</li> <li>8. しつけと虐待</li> <li>9. こどもの学びと教育</li> <li>10. こどもと学校、いじめ・不登校など</li> <li>11. 医療・福祉領域におけるこどもへの取り組み</li> <li>12. こどもを取り巻く環境としての現代社会</li> <li>13. こどもとメディア</li> <li>14. こどもをめぐる経済</li> <li>15. さまざまな状況で生きる世界のこどもたち</li> </ol>		
<b>テキスト</b>		
<p>「こども学概論」（配本テキスト）  「保育所保育指針解説書」（フレーベル館）  「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）</p>		
<b>参考書・参考資料等</b>		
特になし		
<b>学生に対する評価</b>		
<p>学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。  科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する。</p>		

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
児童家庭福祉	2単位	レポート・科目試験
<b>授業の到達目標及びテーマ</b>		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会における児童家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。</li> <li>2. 児童家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権について理解する。</li> <li>3. 児童家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。</li> <li>4. 児童家庭福祉の現状と課題について理解する。</li> <li>5. 児童家庭福祉の動向と展望について理解する。</li> </ol>		
<b>授業の概要</b>		
望ましい保育者となるために、児童家庭福祉の領域に関する基本的な知識・技能・人間性として身につけなければならないこと等について学ぶ。		
<b>授業計画</b> テキストによる通信授業		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 児童家庭福祉の理念と概念</li> <li>2. 児童家庭福祉の歴史の変遷</li> <li>3. 現代社会と児童家庭福祉</li> <li>4. 児童家庭福祉と保育 <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童家庭福祉の一分野としての保育</li> <li>・児童の人権擁護と児童家庭福祉</li> </ul> </li> <li>5. 児童家庭福祉の制度と法体系</li> <li>6. 児童家庭福祉行財政と実施機関</li> <li>7. 児童福祉施設等</li> <li>8. 児童家庭福祉の専門職・実施者</li> <li>9. 児童家庭福祉の現状と課題① <ul style="list-style-type: none"> <li>・少子化と子育て支援サービス</li> <li>・母子保健と児童の健全育成</li> </ul> </li> <li>10. 児童家庭福祉の現状と課題② <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な保育ニーズへの対応</li> <li>・児童虐待防止・ドメスティックバイオレンス</li> </ul> </li> <li>11. 児童家庭福祉の現状と課題③ <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的養護</li> <li>・障がいのある児童への対応</li> </ul> </li> <li>12. 児童家庭福祉の現状と課題④ <ul style="list-style-type: none"> <li>・少年非行等への対応</li> </ul> </li> <li>13. 次世代育成支援と児童家庭福祉の推進</li> <li>14. 保育・教育・療育・保健・医療等との連携とネットワーク</li> <li>15. 諸外国の動向</li> </ol>		
<b>テキスト</b>		
「児童家庭福祉」（配本テキスト） 「保育所保育指針解説書」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）		
<b>参考書・参考資料等</b>		
保育者養成シリーズ 『新版・児童家庭福祉論』（一藝社）2015年（ISBN：9784863590946）		
<b>学生に対する評価</b>		
学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。 科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する。		

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
社会福祉論	2単位	レポート・科目試験
<b>授業の到達目標及びテーマ</b>		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷について理解する。</li> <li>2. 社会福祉と児童家庭福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性について理解する。</li> <li>3. 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。</li> <li>4. 社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて理解する。</li> <li>5. 社会福祉の動向と課題について理解する。</li> </ol>		
<b>授業の概要</b>		
<p>望ましい保育者となるために、社会福祉の意義や歴史の変遷に触れ、その意義や制度体系について理解を深めるとともに、児童家庭福祉との関連についても学ぶ。</p>		
<b>授業計画</b> テキストによる通信授業		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会福祉の理念と概念</li> <li>2. 社会福祉の歴史の変遷</li> <li>3. 社会福祉の一分野としての児童家庭福祉</li> <li>4. 児童の人権擁護と社会福祉</li> <li>5. 家庭支援と社会福祉</li> <li>6. 社会福祉の制度と法体系</li> <li>7. 社会福祉行財政と実施機関</li> <li>8. 社会福祉施設等の概要と位置づけ</li> <li>9. 社会福祉の専門職・実施者</li> <li>10. 社会保障及び関連制度の概要</li> <li>11. 社会福祉における相談援助 <ol style="list-style-type: none"> <li>①相談援助の意義と原則</li> <li>②相談援助の方法と技術</li> </ol> </li> <li>12. 社会福祉における情報提供と第三者評価および利用者の権利擁護と苦情解決</li> <li>13. 少子高齢化社会への対応</li> <li>14. 在宅福祉・地域福祉の推進</li> <li>15. 諸外国の動向</li> </ol>		
<b>テキスト</b>		
「社会福祉論」(配本テキスト) 「保育所保育指針解説書」(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)		
<b>参考書・参考資料等</b>		
井村圭壯・相津譲治編著『社会福祉の基本と課題』(勤草書房)(ISBN : 9784326700851)		
<b>学生に対する評価</b>		
学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。 科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する。		

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
相 談 援 助	1単位	スクーリング

#### 授業の到達目標及びテーマ

1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷について理解する。
2. 相談援助の方法と技術について理解する。
3. 相談援助の具体的展開について理解する。
4. 保育におけるソーシャルワークの応用と事例分析を通して対象への理解を深める。

#### 授業の概要

望ましい保育者となるために、ソーシャルワークに関する基本的な知識や技術、人間として身につけなければならない価値・倫理等について学ぶ。

#### 授業計画 スクーリングによる面接授業

1. 相談援助の理論・意義・機能
2. 保育における相談援助の位置づけ
3. 相談援助の方法と技術
  - (1) 相談援助の対象と支援過程
  - (2) 相談援助の技術・アプローチ
4. 相談援助における計画・記録・評価
5. 相談援助における関係機関と協働
6. 相談援助における多様な専門職との連携
7. 相談援助における社会資源の活用、調整、開発
8. 事例分析
  - (1) 虐待の防止と対応等の事例分析
  - (2) 障害のある子どもとその保護者への支援等の事例分析
  - (3) ロールプレイ、フィールドワーク等による事例分析

#### テキスト

「保育所保育指針解説書」(フレーベル館)

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)

#### 参考書・参考資料等

保育者養成シリーズ『相談援助』(一藝社)(ISBN : 9784863590359)

#### 学生に対する評価

領 域	割 合	評 価 基 準
受 講 態 度	20%	自律した学ぶ姿勢・行動がとれているかを基準とする。
課 題		
そ の 他		
単位認定試験	80%	演習で取り扱った内容を踏まえ、設定されてテーマについて深く論じることができているかを基準とする。
特 記 事 項	上記2領域の配分割合により100点満点で評価し、60点以上を合格とする。	

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
保育相談支援	1単位	スクーリング

### 授業の到達目標及びテーマ

1. 保育相談支援の意義・原則・基本について理解する。
2. 保育相談支援（保護者支援）の内容・方法・実際について理解する。

### 授業の概要

保育相談支援は演習科目です。保育原理・保育内容・相談支援・社会福祉論等々保育士として学んできた事を統合して使いこなす方法を学びます。保育相談支援は保育の知識及び技術を使って子どもの最善の利益を守るため行われる保護者支援です。保育の知識及び技術はなにか、保護者の何を支援するのかを演習を通して学びます。

### 授業計画 スクーリングによる面接授業

※保育相談支援とは何かについて学ぶ

1. 保育相談支援では、子どもの最善の利益を守るため、保育の知識技術・社会福祉の知識及び技術・保育所の特性を使って保護者を支援することを学ぶ。
2. 保護者支援では、子どもの成長の喜びを共有する、保護者の養育力の向上をはかる、親子関係の安定化をはかるなどを通し、親と子どもとの絆をつないでいく。

※保育相談支援の知識と技術について学ぶ

3. 保育相談支援の技術は、保育の知識と技術を使って進める事を学ぶ。
4. 保育では発達に沿って、子どもの態度・知識・情緒を育てる、基本的生活習慣を育てる、5領域の力を育てる等を行うが、保育士はその知識と技術をもっている。保育相談支援では、その知識と技術を使って保護者支援を行うことを学ぶ。
5. 保育実践における保護者支援について演習する。

例：連絡帳・園だより・保護者会・保育参加等々の保護者支援としての意義と役割

※保育相談支援の実際について学ぶ

6. 事例を通して、保育相談支援の実際を考える。
7. 保育所で、特別な対応を要する家庭への支援について事例を通して学ぶ。
8. 入所児童福祉施設等での保育相談支援の実際について事例を通して学ぶ。

### テキスト

「保育所保育指針解説書」（フレーベル館）

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）

### 参考書・参考資料等

「保育相談支援」大嶋恭二、金子恵美編著（建帛社）2011年（ISBN：9784767932903）

### 学生に対する評価

領 域	割 合	評 価 基 準
受 講 態 度	10%	演習科目のため、積極的に参加し、自分の意見を発表できているか。
課 題	20%	事前課題、スクーリング中に出された課題の主旨を理解して、まとめられているか。
そ の 他	10%	話し合いの状況・ロールプレイへの参加状況。
単位認定試験	50%	演習で扱った内容について、自分なりに考え、また保育者としての専門性も大切にしながら考え論じる事ができているか。
特 記 事 項	上記4領域の配分割合により100点満点で評価し、60点以上を合格とする。	

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
<b>こどもと音楽</b>	2単位	レポート・科目試験
<b>授業の到達目標及びテーマ</b>		
<p>到達目標：音楽の基礎知識を理解し、それを基盤とした指導力を身につける。            テーマ：保育の内容を理解し、こどもに音楽の楽しさを伝えられる基礎力、技術力を養う。</p>		
<b>授業の概要</b>		
<p>日々の保育において、音楽を生かした遊びや活動を行うために必要な基礎知識を中心に学習し、こどもに音楽の楽しさを伝えられる技術力と実践力を養う。</p>		
<b>授業計画</b> テキストによる通信授業		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. こどものうたや伴奏法の習得に関する音楽理論の基本的知識を元にした学習の進め方と内容を確認する。</li> <li>2. 譜表 音名 記号について学習する。</li> <li>3. 様々な音符や休符の種類と記譜について学習する。</li> <li>4. 音楽を生かした遊びや活動を行う為に必要な拍子、拍子記号について学習する。</li> <li>5. 保育の現場での身体運動や、遊びに使用出来る様々なリズムや旋律等について学習。</li> <li>6. 音階と調の基本を学びこどもの声の高さに合わせられる簡単な移調法について学習する。</li> <li>7. 簡単な伴奏法に役立つ基本的和音について学習する。</li> <li>8. 速度、強弱、曲想と奏法に関する表示法を学習する。</li> <li>9. こどものうた（わらべ唄、唱歌、童謡、遊びうた等）を調べ分類する。</li> <li>10. 場面、年齢に応じて遊べる手遊びのピアノ伴奏法について学習する。</li> <li>11. こどものための音楽教育の目標を考える。</li> <li>12. 幼児教育における音楽の大切な役割や効果について考える。</li> <li>13. こどもの1日の活動や流れをシミュレーションし、それに音楽をどのように関わらせていくか記述してみる。</li> <li>14. 幼児用楽器や身体表現の手法の一つである手拍子・足拍子・膝打ちなどについて考え、音楽をどのようにして日々の保育に生かすべきか考察する。</li> <li>15. 反省点や必要点をみつけ学習に補充する。</li> </ol>		
<b>テキスト</b>		
<p>「こどもと音楽」（配本テキスト）  「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）  「保育所保育指針解説書」（フレーベル館）  「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）</p>		
<b>参考書・参考資料等</b>		
<p>こどものうた「簡易伴奏曲付き」  田中常雄監修 平島美穂、木村鈴代、小杉裕子編著（圭文社）（ISBN：9784874460764）  かんたんメソッド「コードで弾きうたい」  細田淳子、笹井邦彦、西海聡子、悠木昭宏著（カワイ出版）（ISBN：9784760940387）  手あそび百科 植田光子編著（ひかりのくに株式会社）（ISBN：9784564603839）</p>		
<b>学生に対する評価</b>		
<p>学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。  科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する。</p>		

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
<b>こどもと造形 I</b>	1単位	レポート・科目試験
<b>授業の到達目標及びテーマ</b>		
<p>保育の内容を踏まえた造形の基本的な知識の習得を目指し、手の動き・感性・造形的思考が一体となった実践学習を通して造形感覚の基礎的陶冶を図る。また乳幼児を含めたこどもの造形の指導・援助者として、造形教育の中で取り扱う教材に必要な知識や技能の習得を目的とする。</p>		
<b>《到達目標》</b>		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育内容について、こどもの造形的な遊びを展開するために必要な造形知識を理解することを目標とする。</li> <li>2. 形や色、質感等の造形に関する基礎知識をもとに、えがくための材料や用具の取り扱いを理解しながら、実際の製作活動を通して造形表現ができることを目標とする。</li> <li>3. こどもの生活経験と造形活動を結びつける遊びの展開を踏まえ、実践的な保育の教材やそれらを展開するための知識や技術を習得できることを目標とする。</li> </ol>		
<b>授業の概要</b>		
<p>幼児造形の指導・援助者として形や色等の造形の基本的な理論を学習しながら、実際にそれらについてテーマをもとにした色彩分割及び構成学習を行う。また具体的な描写によって観察力を養い、合わせて用具や描画材の特性を利用してさまざまな表現技法から想像力を高め、こどもの造形あそびに関わる手法研究を行う。その他、日用品や廃材等を使用して、素材の質感に触れながら感受性を磨き、創意工夫をして材料を貼りつける製作を行う等、平面及び立体における造形教育を展開するために必要となる知識や技術について体験的に理解します。</p>		
<b>授業計画</b> テキストによる通信授業		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 色彩の配色構成・形態の分割構成の理論と実践</li> <li>2. 基本形態（立方体）の描写と各面の明度差の理論と実践</li> <li>3. デッサン基礎（鉛筆の濃淡を活かした立体表現）</li> <li>4. 絵画技法・描法の研究Ⅰ（モチーフを使用した写生）</li> <li>5. 絵画技法・描法の研究Ⅱ（画材成分によるはじき効果や吹き流しの技法等、偶然性の研究）</li> <li>6. 平面及び立体コラージュ製作と材料研究（点・線・面等の材質を平面・立体的に構成した製作）</li> <li>7. 立体造形の技法と研究（身近な素材や廃材を使用した立体造形の製作）</li> <li>8. 幼児造形教育の課題とまとめ</li> </ol>		
<b>テキスト</b>		
<p>「こどもと造形Ⅰ」（配本テキスト）  「こどもと造形表現Ⅰ」（配本テキスト）  「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）  「保育所保育指針解説書」（フレーベル館）  「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）</p>		
<b>参考書・参考資料等</b>		
<p>市販の造形に関する書籍等</p>		
<b>学生に対する評価</b>		
<p>学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。  科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する。</p>		

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
こどもと造形Ⅱ	1単位	スクーリング

### 授業の到達目標及びテーマ

保育の内容を理解し、造形の基本的な知識と特に手の動き・感性・思考が一体となった実践学習を通して造形感覚の基礎的陶冶を図る。また乳幼児を含めたこどもの造形の指導援助者として、保育の中で取り扱う教材に必要な知識や技能の習得を目的とする。

#### 《到達目標》

1. 保育内容について、こどもの造形的な遊びを展開するために必要な造形知識を理解することを目標とする。
2. 形や色、材質等の造形に関する基礎知識をもとに、えがくための材料や用具の取り扱いと製作活動を通して造形表現ができることを目標とする。
3. こどもの生活経験と造形活動を結びつける遊びの展開を踏まえ、実践的な保育の教材やそれらを展開するための知識や技術を習得できることを目標とする。

### 授業の概要

幼児造形の指導援助者として形や色等の造形の基本的な理論を学習し、それらを踏まえながらテーマをもとに色彩構成学習の実際を学び、合わせて用具や描画材について体験的に理解します。さらにイメージをもとにした製作体験と、素材をもとに、それらの特性を活かし工夫する製作を展開します。具体的には保育現場の教材も視野に入れ日用品や廃材等を使った製作をしていきます。

### 授業計画 スクーリングによる面接授業

1. 幼児造形教育の重要性と研究の視点
2. 幼児造形（表現）の特徴・領域・道筋について
3. えがく領域に伴う製作Ⅰ（えがく活動における指導・援助と実際）
4. つくる領域に伴う製作Ⅱ（つくる活動における指導・援助と実際）
5. 造形あそびの領域に伴う製作Ⅲ（造形遊びにおける指導・援助と実際）
6. 作品の研究及び発表
7. 幼児造形教育の課題について
8. まとめ

### テキスト

- 「こどもと造形Ⅰ」（配本テキスト）
- 「こどもと造形表現Ⅰ」（配本テキスト）
- 「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）
- 「保育所保育指針解説書」（フレーベル館）
- 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）

### 参考書・参考資料等

市販の造形に関する書籍等

### 学生に対する評価

領 域	割 合	評 価 基 準
受 講 態 度	20%	幼児造形教育の課題や製作について、意欲をもって取り組む姿勢であるかを基準とする。
課 題 そ の 他		
単位認定試験	80%	・幼児造形教育の基礎的知識及び造形活動における指導・援助の方法について論じられているかどうかを基準とする。 ・素材（日用品・廃材等）を活かした作品製作による技術力・創意工夫、作品についての研究及び発表内容（表現意欲）を基準とする。
特 記 事 項		上記2領域の配分割合により100点満点で評価し、60点以上を合格とする。



授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
こどもと体育Ⅰ	1単位	レポート・科目試験
<b>授業の到達目標及びテーマ</b>		
<p>こどもの運動遊びは、訓練的にならずこどもたちが能動的に取り組み、多くの体験ができるような環境を設定することが大切である。こどもの年齢や環境、発育発達に即した運動遊びを習得する。</p>		
<b>《到達目標》</b>		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. こどもの発育発達に即した運動能力を理解し、年齢や環境に応じた基本的な動きや運動遊びを身に付ける。</li> <li>2. こどもたちが安全に遊ぶために、遊具の安全性について認識を深める。</li> </ol>		
<b>授業の概要</b>		
<p>こどもの運動遊びの特徴や必要性を発育発達の面から理解しながら、図表や実践例から運動遊びのイメージを膨らませ、安全に楽しく遊びが展開できる知識を理論的に深める。</p>		
<b>授業計画</b> テキストによる通信授業		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会的背景を考慮しつつ、幼児の運動遊びの必要性について考え、その環境作りや言葉掛けについて</li> <li>2. 子どもの発育と運動遊びについて</li> <li>3. 基本的な動き 歩・走・跳・押・引・転・登・投</li> <li>4. 発育発達にあったグループ遊び</li> <li>5. 発育発達にあった競争遊び</li> <li>6. 操作性遊具や器具、身近な素材を使った運動遊び</li> <li>7. 野外での幼児の遊び</li> <li>8. 遊具の遊びと安全</li> </ol>		
<b>テキスト</b>		
<p>「こどもと体育Ⅰ」(配本テキスト)  「幼稚園教育要領解説」(フレーベル館)  「保育所保育指針解説書」(フレーベル館)  「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)</p>		
<b>参考書・参考資料等</b>		
<p>担当者が指示する。</p>		
<b>学生に対する評価</b>		
<p>学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。  科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する。</p>		

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
こどもと体育Ⅱ	1単位	スクーリング

### 授業の到達目標及びテーマ

こどもの運動遊びは、異年齢で運動能力や理解度に差がある中で展開されていき、決まりやルールは集まった子どもたちの能力にあったものを年長者が決めるなど、そのうえ皆が楽しくなければならない。教師・保育者は子どもたちの運動遊びを指導する際、訓練的にならず、子どもたちが能動的に取り組み、多くの体験ができるように環境を設定したり、多くの運動遊びを年齢や環境に応じて子どもたちに提供しなければならない。この講義で発育発達に則した運動遊びの指導法を身に付ける。

#### 《到達目標》

こどもの発育発達に則した運動能力を理解し、年齢にあった運動遊び（野外でのグループ・集団遊び、固定遊具（鉄棒）遊び、大型遊具を使った遊び、鬼ごっこ遊び等）が考えられ指導できるようになる。運動遊びの指導法や必要な知識を習得する。

### 授業の概要

「こどもと体育Ⅰ」での学習をもとに運動遊びを考え発表・体験する。固定遊具、鬼ごっこ等について研究を深め、子どもたちが安全に楽しく運動遊びを展開するための指導法と援助の仕方を学ぶ。

### 授業計画 スクーリングによる面接授業

1. 自然での幼児の遊び
2. 野外での幼児の遊び（グループ・集団）
3. 固定遊具・鉄棒での幼児の遊び（DVD）
4. 操作性遊具を使った遊び（ボール・縄・フープなど）
5. 大型遊具を使った遊び（マット・跳び箱・平均台など）
6. サーキット遊び 絵本の物語などを運動遊びに展開する
7. 鬼ごっこ遊び
8. 伝承遊び

### テキスト

- 「こどもと体育Ⅰ」（配本テキスト）  
「幼稚園教育要領解説」（フレール館）  
「保育所保育指針解説書」（フレール館）  
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレール館）

### 参考書・参考資料等

特になし

### 学生に対する評価

領 域	割 合	評 価 基 準
受 講 態 度	40%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業を通して、関心・意欲・態度が現れている。</li> <li>・ 授業を通して、遊びの構造的発達やこどもの発育発達を理解している。</li> <li>・ 授業を通して、遊びの特徴を理解し授業に参加している。</li> <li>・ 運動の特徴を理解し、安全に配慮し楽しく効果的な指導法の実践を学んでいる。</li> <li>・ 学習に必要な用具を持参している。</li> </ul>
課 題		
そ の 他		
単 位 認 定 試 験	60%	授業で取り扱った基本的な内容が理解できているかを基準とする。
特 記 事 項		上記2領域の配分割合により100点満点で評価し、60点以上を合格とする。

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
こどもと文学	2単位	レポート・科目試験
<b>授業の到達目標及びテーマ</b>		
<p>「子どものころの文学体験は一生消えることなく、その人の人間性にかかわる」(西本鶏介)ものであると言われます。このように言われ生涯にわたる人間性を培うこどもの文学についての理解を深め、子どもにとり成長の糧となりうる一冊の選択肢を養うことを目的とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの文化の先駆的役割を担った「赤い鳥」の主張を理解し、その中の文学について現在に至る過程を認識できるようにします。</li> <li>2. 具体的な作品を探求することから、子どもを取り巻く生活、環境、社会問題などを認識できるようにします。</li> <li>3. 作家たちの多様なメッセージから子どもの未来に向けての生き方、可能性に思いを馳せ、作品の選択眼を養うことができますようにします。</li> </ol>		
<b>授業の概要</b>		
<p>具体的な作品を題材として、作者が子どもに託したメッセージ、先人の機微などを子どもの生活経験と照らし合わせながら分析します。また、小学校の国語の教科書に載せられている作品も取り上げます。</p>		
<b>授業計画 テキストによる通信授業</b>		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 児童文学概論</li> <li>2. 児童文学の形式</li> <li>3. 絵本とは 絵本の種類 (赤ちゃん絵本、物語絵本、知識絵本、民話絵本、障がいを持つ人を理解する絵本、戦争と平和を考える絵本の特徴と紹介)</li> <li>4. 昔話(伝承童話・民話・伝説・神話)</li> <li>5. 小説(少年少女小説・歴史小説・空想小説・科学小説)</li> <li>6. 童話、少年少女詩、戯曲、ノン・フィクション これまでの学習を通して「童話、ないし絵本を紹介しよう」</li> <li>7. 世界の児童文学史</li> <li>8. 日本の児童文学史</li> <li>9. 世界の絵本の歴史</li> <li>10. 日本の絵本の歴史</li> <li>11. 子どもと絵本(絵本の必要性和選び方)</li> <li>12. 子どもと読書活動① 読み聞かせの具体例、留意点</li> <li>13. 子どもと読書活動② 読み聞かせの演習 年齢別絵本リストから作品を選択</li> <li>14. 子どもとお話(お話の必要性和選び方)</li> <li>15. お話の仕方と話しかたの具体例(『てぶくろ』ラチョフ作、ウクライナ民話より)</li> </ol>		
<b>テキスト</b>		
<p>「こどもと文学」(配本テキスト)  「幼稚園教育要領解説」(フレーベル館)  「保育所保育指針解説書」(フレーベル館)  「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)</p>		
<b>参考書・参考資料等</b>		
<p>「てぶくろ」エフゲニー・ラチョフ作、内田莉莎子訳(福音館書店)(ISBN:9784834000504)  「国語科の目標及び内容」P.111~132(「こどもと文学」テキスト巻末資料より)  「子どもの本のリスト」日本子どもの本研究会編 P.133~143(「こどもと文学」テキスト巻末資料より)</p>		
<b>学生に対する評価</b>		
<p>学習状況の確認: レポート課題におけるの専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。  科目の成績評価: 科目試験の結果により判定し評価する。</p>		

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
家庭支援論	2単位	レポート・科目試験
<b>授業の到達目標及びテーマ</b>		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家庭の意義とその機能について理解する。</li> <li>2. 子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解する。</li> <li>3. 子育て家庭の支援体制について理解する。</li> <li>4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する。</li> </ol>		
<b>授業の概要</b>		
望ましい保育者となるために、家庭に関する基本的な知識、家庭支援の専門性等について学んでいく。		
<b>授業計画</b> テキストによる通信授業		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家庭支援の意義と役割</li> <li>2. 家庭の意義と機能</li> <li>3. 家庭支援の機能</li> <li>4. 保育士等が行う家庭支援の原理</li> <li>5. 家庭生活を取り巻く社会的状況① <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代の家庭における人間関係</li> </ul> </li> <li>6. 家庭生活を取り巻く社会的状況② <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域社会の変容と家庭支援</li> </ul> </li> <li>7. 家庭生活を取り巻く社会的状況③ <ul style="list-style-type: none"> <li>・男女共同参画社会とワークライフバランス</li> </ul> </li> <li>8. 子育て家庭の支援体制① <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て家庭の福祉を図るための社会資源</li> </ul> </li> <li>9. 子育て家庭の支援体制② <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援政策・次世代育成政策の推進</li> </ul> </li> <li>10. 子育て支援サービスの概要</li> <li>11. 保育所入所児童の家庭への支援</li> <li>12. 地域の子育て家庭への支援</li> <li>13. 要保護児童及びその家庭に対する支援</li> <li>14. 子育て支援における関係機関との連携</li> <li>15. 子育て支援サービスの課題</li> </ol>		
<b>テキスト</b>		
「家庭支援論」(配本テキスト) 「保育所保育指針解説書」(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)		
<b>参考書・参考資料等</b>		
保育者養成シリーズ 『家庭支援論』(一藝社)(ISBN : 9784863590618)		
<b>学生に対する評価</b>		
学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。 科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する。		

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
こどもの保健Ⅰ	2単位	レポート・科目試験
<b>授業の到達目標及びテーマ</b>		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児・母子保健の意義や統計を学び、こどもの実態を理解する。</li> <li>2. こどもの成長・発達の特徴を理解し、その過程に応じた対応・支援を学ぶ。</li> <li>3. こどもの発育・発達の過程でおこる心身の疾病等について理解する。</li> <li>4. こどもの保育の環境・衛生環境等についての安全管理について必要性を理解する。</li> <li>5. こどもの成長にはかかすことができない家庭、専門機関、地域の連携について理解する。</li> </ol>		
<b>授業の概要</b>		
<p>日常の保育の中で、こどもが心身ともに健康に成長発達ができるように、こどもの発育・発達過程を学び観察力と応用力を身につける。</p>		
<b>授業計画</b> テキストによる通信授業		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児保健・母子保健統計から、近年のこどもの実態の把握</li> <li>2. こどもの健康と生活</li> <li>3. 児童虐待の理解と防止 <ul style="list-style-type: none"> <li>・養育者の環境、家族支援</li> </ul> </li> <li>4. こどもの生理機能・運動機能・精神機能の発達と発育の特徴 <ul style="list-style-type: none"> <li>・精神発達の学習においては、情緒的発達にも着目</li> </ul> </li> <li>5. 身体の障がいのあるこども・家族支援</li> <li>6. 精神の障がいのあるこども・家族支援</li> <li>7. 障がいを持っているこども・家族の地域における支援体制</li> <li>8. 予防接種の意味と種類・効果</li> <li>9. 予防接種の救済制度と支援</li> <li>10. 保育環境の衛生管理</li> <li>11. 事故防止と救急処置</li> <li>12. 安全対策と危機管理</li> <li>13. 家庭・専門機関・地域との連携の重要性</li> <li>14. 保育所保育指針と幼保連携型認定こども園教育・保育要領における小児の保健</li> <li>15. まとめ</li> </ol>		
<b>テキスト</b>		
<p>「こどもの保健Ⅰ」（配本テキスト）  「保育所保育指針解説書」（フレーベル館）  「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）</p>		
<b>参考書・参考資料等</b>		
<p>適宜紹介する</p>		
<b>学生に対する評価</b>		
<p>学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。  科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する。</p>		

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
<b>こどもの保健Ⅱ</b>	2単位	レポート・科目試験
<b>授業の到達目標及びテーマ</b>		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育の現場で、こどもの異常や病気の早期発見の観察力を身につける。</li> <li>2. 保育における疾病の看護と応急処置、感染症の予防と対策について実践できる力を養う。</li> <li>3. 事故防止や健康安全管理に対する取り組みについて理解できる。</li> <li>4. 急変時や災害時の対応を学び実施できる。</li> <li>5. こどもの福祉や健康増進に関係する法律や制度、家庭や専門機関との連携を理解する。</li> </ol>		
<b>授業の概要</b>		
<p>こどもが保育中に体調不良や病気になった時に、速やかな対応ができるように、こどもの保健Ⅰでの理解を基盤として学習する。保育にかかわる者として、自分自身の健康管理の重要性を学ぶ。</p>		
<b>授業計画</b> テキストによる通信授業		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. こどもの生活習慣と病気との関係：食生活、菌の健康管理の必要性</li> <li>2. 日常よくみる症状：嘔吐・腹痛・頭痛・便秘・下痢・不機嫌等</li> <li>3. 日常よくみる病気：感染症（食中毒含む）</li> <li>4. 体調不良のこどもの対応：なんとなく元気がない・不機嫌等</li> <li>5. アレルギーのあるこどもへの対応：アトピー体質・喘息等</li> <li>6. 小児感染症の予防と対策</li> <li>7. 個別的な配慮を必要とするこどもへの対応 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 児童虐待が疑われるこどもへの対応</li> <li>2) アナフィラキシーの既往のあるこどもへの対応</li> </ol> </li> <li>8. 気になるこどもへの対応</li> <li>9. 事故防止・災害への備えと組織的な取り組み</li> <li>10. 救急処置・救急蘇生法の理解</li> <li>11. 感染症発生時の対応：施設における安全対策の机上シミュレーション等</li> <li>12. 施設における災害時の危機管理対策</li> <li>13. 事故防止と安全教育：家族と連携施設との協働</li> <li>14. 「校内演習」に向けて</li> <li>15. まとめ</li> </ol>		
<b>テキスト</b>		
<p>「こどもの保健Ⅰ」（配本テキスト）  「こどもの保健Ⅱ」（配本テキスト）  「保育所保育指針解説書」（フレール館）  「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレール館）</p>		
<b>参考書・参考資料等</b>		
<p>適宜紹介する</p>		
<b>学生に対する評価</b>		
<p>学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。  科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する。</p>		

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
こどもの保健Ⅲ	1単位	スクーリング
<b>授業の到達目標及びテーマ</b>		
1. 保育施設における健康管理や環境管理ができる。 2. こどもがかかりやすい病気と予防について理解できる。 3. 保育中に体調不良になった場合に適切な対処ができる。 4. 保育中の事故に対する応急処置、救急時の対応ができる。		
<b>授業の概要</b>		
集団保育における病気や事故時の対応等について学び、病気や事故を未然に防ぐ危機管理能力を高め演習を通して実践できる力を身につける。		
<b>授業計画</b> スクーリングによる面接授業		
1. 身体計測の演習と評価 2. 観察項目「バイタルサイン」の測定の仕方と評価 3. 日常の保育に必要な養護技術 1) だっこ・おんぶ・食事（調乳）・口腔内の清潔 2) 排泄の援助とトレーニング 3) 身体の清潔保持（沐浴実習とおむつの当て方）衣服の着脱 4. 一般的な症状に対する看護 1) 発熱・泣き方・咳等 2) 頭痛・腹痛・嘔吐・便秘・下痢等 5. 病気の対応と予防：感染症（ウイルス・細菌性）（食中毒） ・手洗いの必要性和手洗いの実習 6. 応急処置・救急法 包帯・三角布を使って演習 1) 具体的な症状の応急処置：意識障害・出血・外傷・熱傷・熱中症・鼻出血・異物・アレルギー体質のこどもに対する対応 2) 人形を使った一次蘇生法の演習・救急車の呼び方 7. 保育施設での安全管理対策と地域との連携と協働 8. まとめ		
<b>テキスト</b>		
「こどもの保健Ⅰ」（配本テキスト） 「こどもの保健Ⅱ」（配本テキスト） 「保育所保育指針解説書」（フレール館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレール館）		
<b>参考書・参考資料等</b>		
適宜紹介する		
<b>学生に対する評価</b>		
領 域	割 合	評 価 基 準
受 講 態 度	30%	保育者を目指す者として、意欲的に学ぶ態度、姿勢が見られるかを基準とする。
課 題	10%	事前学習課題のプレゼンテーションの内容、発表姿勢を基準とする。
そ の 他	10%	プレゼンテーションを受け、発表者（参加者を含む）と積極的にディスカッションに臨んでいるかを基準とする。
単位認定試験	50%	面接授業で習得した内容について、自身の経験を踏まえて専門職業人としての視点から考え、追求していることが伺えるかを基準とする。
特 記 事 項	上記3領域の配分割合により100点満点で評価し、60点以上を合格とする。	

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
保 育 原 理	2単位	レポート・科目試験
<b>授業の到達目標及びテーマ</b>		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育の意義について理解する。</li> <li>2. 保育の基本について理解する。</li> <li>3. 保育の質を高めるための方法を理解する。</li> <li>4. 保育所の歴史的発展過程を理解する。</li> <li>5. 保育制度について理解し保育の現状と課題について考察する。</li> </ol>		
<b>授業の概要</b>		
<p>保育原理では、子どもをめぐる環境をふまえながら、「保育とは何か」を広い視野から捉えて保育全般を学ぶ。具体的には、保育の意義と目的、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における保育の基本について理解し、保育の質を高めるための方法を学ぶ。さらに、保育の思想と歴史の変遷について学んだ上で、保育の制度を理解し、保育の現状と課題について考察する。</p>		
<b>授業計画</b> テキストによる通信授業		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育とは何か <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育の意義と目的</li> </ul> </li> <li>2. 保育の思想と歴史の変遷1 <ul style="list-style-type: none"> <li>・欧米の保育思想の展開と保育施設の発展</li> </ul> </li> <li>3. 保育の思想と歴史の変遷2 <ul style="list-style-type: none"> <li>・わが国における保育の歴史の変遷</li> </ul> </li> <li>4. 乳幼児の発達と保育 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 発達のとらえ方と特性</li> <li>(2) 乳幼児期の生活と遊び</li> </ol> </li> <li>5. 保育の内容 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 保育所保育指針における保育の基本</li> <li>(2) 幼稚園教育要領における保育の基本</li> <li>(3) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領における保育の基本</li> </ol> </li> <li>6. 保育の方法 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 環境による保育</li> <li>(2) 健康保育・安全保育</li> </ol> </li> <li>7. 保育の計画 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 保育所の保育課程と指導計画</li> <li>(2) 幼稚園の教育課程と指導計画</li> </ol> </li> <li>8. 現代社会と子育て支援 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 現代家庭と子育て</li> <li>(2) 子育てに関する相談援助活動</li> <li>(3) 母子関係と保育</li> </ol> </li> <li>9. 保育制度と保育サービス <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 保育所と幼稚園の制度</li> <li>(2) 少子化と保育サービス</li> </ol> </li> <li>10. 保育所、幼稚園、小学校の連携 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 幼小連携の必要性和連携の難しさ</li> <li>(2) 幼小連携の現状とその試み</li> </ol> </li> <li>11. 保育者とは <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 保育所保育士と幼稚園教諭</li> <li>(2) 保育者の専門性</li> </ol> </li> <li>12. 人権保育 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 子どもの権利条約と保育</li> <li>(2) 保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領と人権</li> </ol> </li> <li>13. 保育と自然 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 環境としての自然</li> <li>(2) 体験型自然教育の実践</li> </ol> </li> <li>14. 保育と芸術 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 芸術とは</li> <li>(2) 子どもの表現と芸術</li> </ol> </li> <li>15. 保育と英語教育 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 子どもの言語発達</li> <li>(2) 保育の場における英語とのふれあい</li> </ol> </li> </ol>		



## テキスト

- 「保育原理」(配本テキスト)
- 「幼稚園教育要領解説」(フレール館)
- 「保育所保育指針解説書」(フレール館)
- 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレール館)

## 参考書・参考資料等

特になし

## 学生に対する評価

学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。  
科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する。

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
社会的養護	2単位	レポート・科目試験
<b>授業の到達目標及びテーマ</b>		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。</li> <li>2. 社会的養護と児童福祉の関連性及び児童の権利擁護について理解する。</li> <li>3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。</li> <li>4. 社会的養護における児童の人権擁護及び自立支援等について理解する。</li> <li>5. 社会的養護の現状と課題について理解する。</li> </ol>		
<b>授業の概要</b>		
<p>望ましい保育者となるために、社会的養護に関する基本的な知識、専門性、人間性として身につけなければならないこと等について学ぶ。</p>		
<b>授業計画</b> テキストによる通信授業		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会的養護の理念と概念</li> <li>2. 社会的養護の歴史の変遷</li> <li>3. 児童家庭福祉の一分野としての社会的養護</li> <li>4. 児童の権利擁護と社会的養護</li> <li>5. 社会的養護の制度と法体系</li> <li>6. 社会的養護の仕組みと実施体系</li> <li>7. 家庭的養護と施設養護</li> <li>8. 社会的養護の専門職・実施者</li> <li>9. 施設養護の基本原理</li> <li>10. 施設養護の実際－日常生活支援、治療的支援、自己現実・自立支援等－</li> <li>11. 施設養護とソーシャルワーク</li> <li>12. 施設等の運営管理</li> <li>13. 倫理の確立</li> <li>14. 被措置児童等の虐待防止</li> <li>15. 社会的養護と地域福祉</li> </ol>		
<b>テキスト</b>		
<p>「社会的養護」（配本テキスト）  「保育所保育指針解説書」（フレーベル館）  「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）</p>		
<b>参考書・参考資料等</b>		
<p>保育者養成シリーズ『社会的養護』千葉茂明編著（一藝社）（ISBN：9784863590717）</p>		
<b>学生に対する評価</b>		
<p>学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。  科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する。</p>		

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
こどもの食と栄養	2単位	レポート・科目試験・スクーリング

### 授業の到達目標及びテーマ

1. 健康な生活の基本としての食生活の意義及び基本的知識を学ぶ。
2. こどもの発育発達にあわせた食生活とその意義実践について理解する。
3. 食育を行うための基礎知識を学びその重要性を理解するとともに食育を行うための地域社会との関わりを持ちながら、それを活かして活用するための力をつける。
4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。
5. 特別な配慮を要するこどもの食と栄養について理解する。

### 授業の概要

1. レポート課題及び単位認定試験出題課題を中心にテキスト及び参考書等を活用してこどもの食と栄養について深く理解する。
2. スクーリングを通して授業到達目標を幅広く理解するとともに知識を深め実践力をつける。

### 授業計画 テキストによる通信授業とスクーリングによる面接授業

#### 【通信】

1. 栄養に関する基本概念と栄養素についての理解
2. 食事摂取基準・献立作成および食品についての理解
3. ライフステージ毎のこどもの発育発達と食生活についての理解
4. こどもの食生活の現状と課題についての理解
5. 食育実践のための基礎知識
6. 食育の内容と計画及び評価、環境整理
7. 特別な配慮を要するこどもへの対応

#### 【面接】

1. 栄養の基本概念と栄養素についての理解
2. 食事摂取基準・献立作成及び食品についての理解
3. こどもの発育・発達と食生活 1) 離乳期
4. こどもの発育・発達と食生活 2) 乳・幼児期
5. こどもの発育・発達と食生活 3) 学童・思春期
6. 食育の基本と内容
7. 食育の実践のための基本的知識の理解と実践法
8. 特別な配慮を要するこどもへの支援

### テキスト

- 「こどもの食と栄養」(配本テキスト)  
「保育所保育指針解説書」(フレーベル館)  
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)

### 参考書・参考資料等

- 「子どもの食と栄養演習」小川雄二(建帛社)(ISBN:9784767932828)  
「日本食品成分表」  
「子どもの食と栄養」堤ちはる著(萌文書林)(ISBN:9784893471543)  
「乳幼児の食育実践へのアプローチ」保育所における食育研究会編(児童育成協会児童給食事業部)

### 学生に対する評価

#### 【通信授業】

学習状況の確認：レポート課題における専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。  
科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する。

#### 【面接授業】

領 域	割 合	評 価 基 準
受 講 態 度	10%	保育者を目指す者として、自律した学ぶ姿勢・行動であるかを基準とする。
課 題	30%	事前学習課題の内容が適確であること。それをういた演習により授業内容の理解を深められることを基準とする。
そ の 他		
単位認定試験	60%	授業内容を理解し、自分の生活にあてはめ、しっかり考察ができ、今後に役立て発展していく内容であることを基準とする。
特 記 事 項	上記3領域の配分割合により100点満点で評価し、60点以上を合格とする。	

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
障 害 児 保 育	2 単 位	レポ-ト・科目試験・スクーリング

### 授業の到達目標及びテーマ

1. 障がい児保育を支える理念や歴史の変遷について学び、障がい児保育及びその保育について理解する。
2. 様々な障がいについて理解し、子どもの理解や援助の方法、環境構成等について学ぶ。
3. 障がいのある子どもの保育の計画を作成し、個別支援及び他の子どもとの関わりの中で育ちあう保育実践について理解を深める。
4. 障がいのある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解する。
5. 障がいのある子どもの保育にかかわる保健・医療・福祉・教育等の現状と課題について理解する。

### 授業の概要

近年、保育における障がい児へのニーズが高まっている。そこで本講義では、障がいの種類や障がい児の特性、障がい児に対する保育方法等、障がい児を保育する際に必要な基本的知識を教授する。

### 授業計画 テキストによる通信授業とスクーリングによる面接授業

#### 【通信】

1. 「障がい」の概念と障がい児保育の歴史の変遷
2. 障がい児保育の基本
3. 肢体不自由児、視覚・聴覚障がい児等の理解と支援
4. 知的障がい児の理解と支援
5. 発達障がい児の理解と支援 (PDD、ADHD、LD)
6. 家族の障がい受容
7. 障がいのある子どもの家族のストレスおよび支援

#### 【面接】

1. 障がいのある子どもの記録及び評価と計画作成
2. 個々の発達を促す生活や遊びの環境
3. 子ども同士のかかわりと育ち合い
4. 職員間の協働
5. 保護者や家族に対する理解と支援
6. 地域の専門機関や小学校との連携
7. 障がいのある子どもの保育にかかわる保健・医療・福祉・教育における現状と課題
8. 障がいのある子どもの支援の場の広がりとながり

### テキスト

「障害児保育」(配本テキスト)

「保育所保育指針解説書」(フレーベル館)

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)

### 参考書・参考資料等

渡部信一・無藤隆・本郷一夫編 (2014)『障害児保育(新版)』北大路書房 (ISBN : 9784762828362)

### 学生に対する評価

#### 【通信授業】

学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。  
科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する。

#### 【面接授業】

領 域	割 合	評 価 基 準
受 講 態 度	10%	保育者を目指す者として、自律した学ぶ姿勢・行動であるかを基準とする。
課 題		
そ の 他	10%	グループディスカッションなどにおける参加姿勢(個人の考えや感想の伝達)を基準とする。
単 位 認 定 試 験	80%	授業で取り扱った内容について、基本的な理解ができているかどうか、また保育者という専門職業人としての視点から自身の経験を踏まえて、深く論じることができているかどうかを基準とする。
特 記 事 項	上記3領域の配分割合により100点満点で評価し、60点以上を合格とする。	